令和６年台風10号による逢初川源頭部の状況

（静岡県盛土対策課）

1　大雨の状況

・令和６年８月29日から９月１日にかけて、台風10号の影響により熱海市内では、大雨が降りました。

・県熱海総合庁舎の雨量計では時間最大46mm、72時間最大463mmの大雨を観測し、令和３年の土石流発生時の降雨量を大きく上回りました。【表１のとおり】

【表１】令和３年土石流発生時と令和６年台風10号の降雨量比較

熱海観測局	1時間雨量	24時間雨量	72時間雨量
令和３年 土石流発生時	24	257	461
令和６年 台風10号	46	376	463

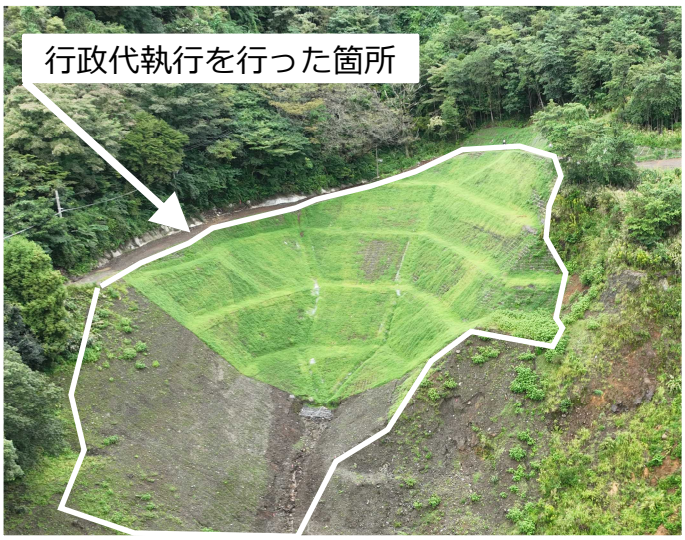
2　逢初川源頭部の状況（新聞報道の箇所）

・令和６年９月６日の静岡新聞朝刊に、"落ち残った盛土に新たな崩落が発生した"との記事が掲載されました。

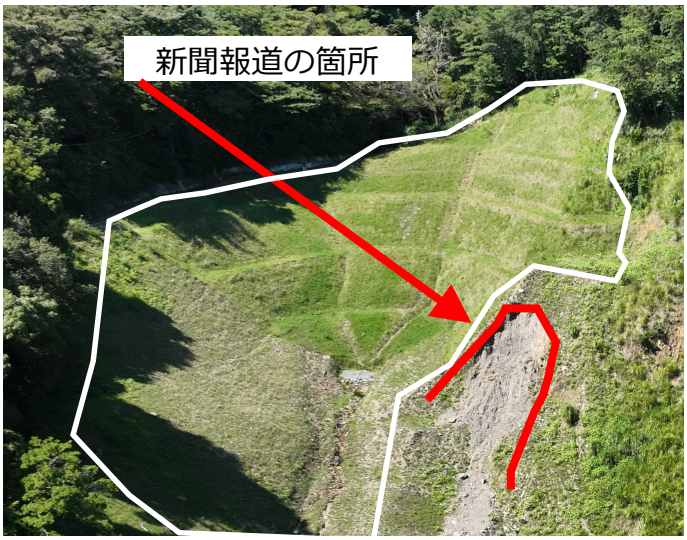
・現地調査したところ、今回崩落した箇所では湧水や浸食が見られないことから、降雨の浸透により斜面の土砂(10m³程度)が落下したものであり、大規模な崩壊につながるおそれは低いと考えます。

・崩落した土砂は、雨水の流れる谷底より高い位置に堆積しているため、大雨時に増水しても一気に流れ出るおそれはないと考えています。

・今回降った過去最大の大雨では、行政代執行を行わなかった部分でも小崩落(10m³程度)に留まっており、行政代執行を実施した範囲やその上部は安定していることを確認しています。



行政代執行を実施した直後に撮影した写真
写真撮影日：令和５年10月４日



行政代執行箇所と小崩落箇所
写真撮影日：令和６年９月18日

令和６年台風10号による逢初川源頭部の状況

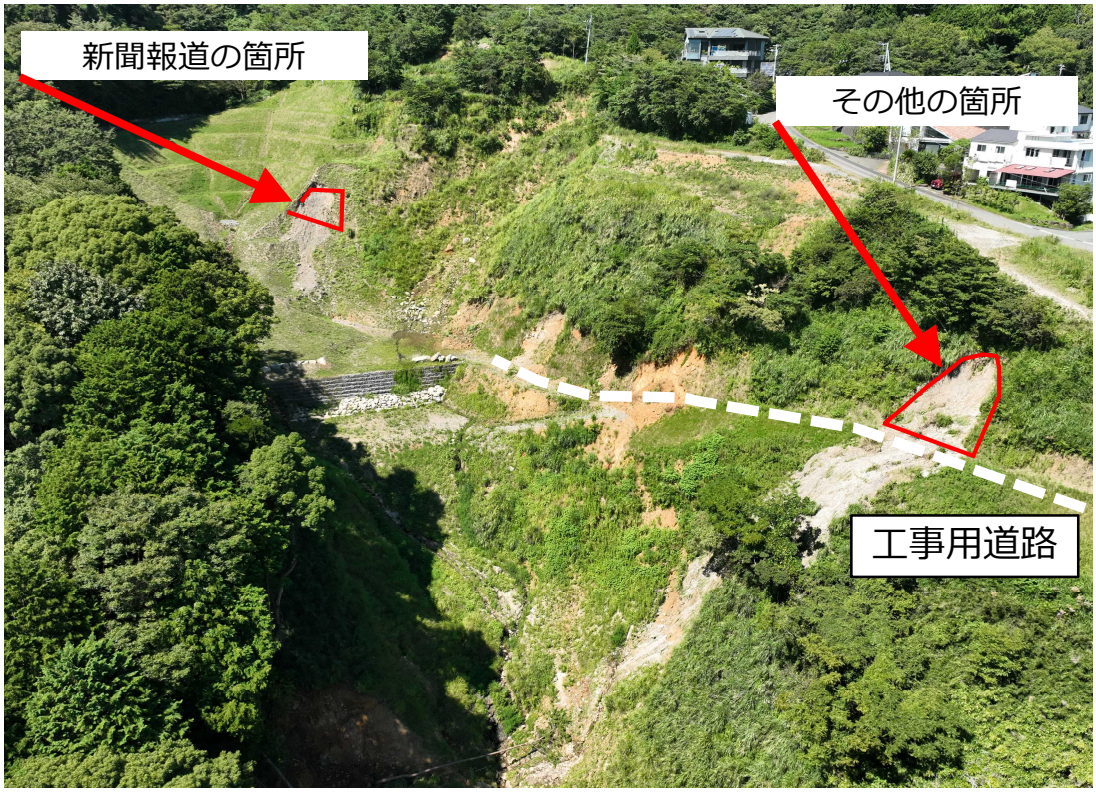
3　逢初川源頭部の状況（その他の箇所）

・新聞報道にあった崩落のほかにも、伊豆山神社本宮近くの斜面に崩落が確認されました。

・この崩落にも湧水や浸食が見られないことから、降雨の浸透により斜面の土砂が落下したものと考えられます。

・崩落の規模は40m³程度と想定され、崩落した土砂のほとんどは工事で使用した道路に堆積しています。

・崩落箇所の下側の斜面には土砂が流れた形跡がありますが、草木の生えた斜面に薄く流れただけであり、災害につながるおそれは低いと考えています。



逢初川源頭部付近の状況
写真撮影日：令和６年９月18日

○今後も、大雨等後のパトロールや経過観察を行い、対策が必要な場合には、適切な措置を講じてまいります。

○状況につきましては、住民の皆様に対し情報提供してまいります。